

平成26年度 教科に関する研究  
研究主題「思考力・判断力・表現力を育む学習指導と評価」

## 図画工作・美術

感性や想像力を働かせて，思考力・判断力・表現力を育む図画  
工作・美術科学習指導と評価

－〔共通事項〕を視点に，かいたり伝え合ったりする言語活動  
を位置付けた授業づくりを通して－



## 目 次

I	主題について	1
II	授業研究	
	【授業研究 1】	
	感性や想像力を働かせて、思考力・判断力・表現力を育む図画工作科学習指導と評価 －小学校第 4 学年「気球に乗って大空を旅しよう！」における表現と鑑賞の関連を図 った学習活動と評価の工夫を通して－	5
	【授業研究 2】	
	感性や想像力を働かせて、思考力・判断力・表現力を育む美術科学習指導と評価 －中学校第 1 学年「自分の言葉で表現しよう～美しさの伝え方～」における根拠をも って伝え合う学習活動と評価の工夫を通して－	12
	【授業研究 3】	
	感性や想像力を働かせて、思考力・判断力・表現力を育む美術科学習指導と評価 －高等学校第 2 学年美術Ⅱ「こだわりのクロッキー」における思いや考えをもって表 現するための学習活動と評価の工夫を通して－	19
III	研究のまとめ	26

## 図画工作・美術科研究主題

### 感性や想像力を働かせて、思考力・判断力・表現力を育む図画工作・美術科学習指導と評価

#### －〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた授業づくりを通して－

## I 主題について

### 1 図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力について

学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成22年3月に中央教育審議会から「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」が報告された。図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力に係る観点として「発想や構想の能力」と「鑑賞の能力」が示された。二つの観点の趣旨について以下に示す。

#### ○発想や構想の能力

(小学校) 感じたことや材料などを基に表したいことを思い付いたり、形や色、用途などを考えたりしている。

(中学校) 感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。

(高等学校) 感性や想像力を働かせて、主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。

#### ○鑑賞の能力

(小学校) 作品などの形や色などから、表現の面白さをとらえたり、よさや美しさを感じ取ったりしている。

(中学校) 感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさなどを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。

(高等学校) 美術や美術文化を幅広く理解し、そのよさや美しさを創造的に味わっている。

(実線及び波線は本資料作成者による。)

図画工作・美術科における思考力・判断力を育むためには、児童や生徒が、感性や想像力を働かせて（実線）、表したいことを思い付き、創造的な表現の構想を練ること及び表現の面白さをとらえたり、よさや美しさを感じ取り味わったりすること（波線）が重要である。また、表現力を育むためには、このように思考・判断したことを言語活動等を通じて表すことが重要である。

以上のことから、図画工作・美術科において思考力・判断力・表現力を育むためには、上記の観点の趣旨を踏まえ、感性や想像力を働かせて思考・判断し、言語活動等を通じて表す力を育てていく学習指導及び評価を行うことが重要であると考え、本主

題を設定した。

## 2 研究の基本方針

平成22年度の研究では、言語活動の充実を踏まえた表現及び鑑賞の指導を通して、自分なりのイメージを基に、思考・判断し、表現する力を育てる学習指導について研究を行った。平成24年度の研究では、〔共通事項〕を視点に、言語活動を工夫した表現及び鑑賞の指導を通して、思考・判断し、表現する力を育てる学習指導について研究を行った。その結果、題材の中に、形や色、材料などに進んで働きかけながら表すことができる場を設定することや、話し合い活動を位置付けたり、ワークシート等を活用したりするなどの言語活動を工夫することが、児童生徒の思考・判断し、表現する力を育てることに効果があることが分かった。

今回の研究を進めるに当たって、図画工作・美術科における学習指導と評価についての実態調査を実施した。回答結果から、各校種ともに、「思考力・判断力・表現力」を育むことを意識しながら学習指導を行っていることが分かった。また、学習評価を適切に行うために、「学習活動の観察」（各校種）、「学習カードやワークシートの工夫」（小・中学校）、「題材の評価規準の設定」（中・高等学校）などを重視していることが分かった。一方で、「評価計画の作成」、「評価時期の設定」、「評価結果のフィードバック」、「『おおむね満足できる』状況や『十分満足できる』状況と判断される具体的な例などを想定した評価の実施」については、各校種ともに適切に取り組まれていない状況がうかがえる。このことから、計画的な学習評価の実施や、指導と評価の一体化を図ることに課題があると考えられる。

本研究では、これまでの研究の成果及び実態調査の結果を踏まえ、〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた授業づくりを通して、思考力・判断力・表現力を育む図画工作・美術科学習指導と評価の実践的研究を行う。

具体的には、自分なりの感性や想像力を十分に働かせることができるような題材設定を行い、表現及び鑑賞の活動において、〔共通事項〕を視点に、児童生徒が考えたことをワークシートやアイデアスケッチに表したり、言葉で伝え合ったりする言語活動を位置付ける。評価においては、育成する資質や能力を踏まえて、学習活動に即した具体的な評価規準を設定し、学習の進捗の状況や目標の実現状況を的確に把握する。さらに、評価したことを基にして、学習指導の改善に生かしていく。このように、児童生徒が感性や想像力を働かせながら、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた学習活動と適切な学習評価を一体的に進めていくことが、図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力を育むことにつながると考える。

## 3 主題に迫るために

以下に示す2点を踏まえ、具体的な手立てを講じた授業研究を行う。

- ア 〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた表現及び鑑賞の指導の工夫
- イ 児童生徒の学習状況を適切に評価し、指導に生かす工夫

**資料** 図画工作・美術科における思考力・判断力・表現力を育むための学習指導と評価についての実態調査（数値は％）

- (1) 調査期間 平成25年12月20日から平成26年1月17日
- (2) 調査対象 県内公立小学校542校，公立及び県立中学校229校，県立高等学校96校1分校，県立中等教育学校2校
- (3) 回答総数 717件（小学校430件，中学校188件，高等学校（中等教育学校含む）99件）
- (4) 回収率 82.4％

**設問1** 図画工作・美術科における「思考力・判断力・表現力」を育むための学習指導が適切に行われていますか。（％）

	小学校	中学校	高等学校	総数
そう思う	26.0	30.9	33.3	28.2
まあそう思う	71.4	68.1	64.1	69.7
あまりそう思わない	2.6	1.0	2.6	2.1
思わない	0.0	0.0	0.0	0.0

「思考力・判断力・表現力」を育む学習指導が適切に行われている状況を、「そう思う」，「まあそう思う」と回答している学校の割合は，小・中・高等学校のいずれも9割を超えている。

**設問2** 図画工作・美術科における「思考・判断・表現」に係る観点別学習状況の評価の観点である「発想や構想の能力」，「鑑賞の能力」について，評価を適切に行うために取り組んでいること（複数回答可）（％）

	小学校	中学校	高等学校	総数
題材の評価規準の設定	54.2	73.9	75.6	61.9
学習活動における評価規準の設定	41.4	56.4	57.7	47.3
評価計画の作成	21.4	28.7	12.8	22.4
評価時期の設定	18.4	36.2	30.8	24.6
学習カードやワークシートの工夫	79.3	85.6	55.1	78.3
学習活動の観察	85.6	77.1	82.1	82.9
学習カードやワークシート等の記述の分析	55.6	66.5	47.4	57.6
評価結果のフィードバック	13.7	19.7	24.4	16.5
「おおむね満足できる」状況や「十分満足できる」状況と判断される具体的な例などを想定した評価の実施	20.7	42.6	17.9	26.3
特にない	0.0	0.0	1.3	0.1
その他	0.0	0.0	0.0	0.0

評価を適切に行うために取り組んでいることとして、「学習活動の観察」が、総数で8割台で最も高くなっている。次いで、「学習カードやワークシートの工夫」が8割弱、「題材の評価規準の設定」が6割台となっている。一方、「評価計画の作成」、「評価時期の設定」、「評価結果のフィードバック」、「『おおむね満足できる』状況や『十分満足できる』状況と判断される具体的な例などを想定した評価の実施」などが、総数で1割台から2割台となっている。

**設問3** 設問2で選択した項目について、課題となっていることがあれば、自由に記述してください。

各校種とも「学習カードやワークシートの工夫」が最も多く挙げられ、思考力・判断力・表現力を評価するための内容の工夫に関する記述が多く見られた。他に小学校では「学習活動の観察」、中・高等学校では「学習活動における評価規準の設定」が挙げられた。

**設問4** 設問3で選択しなかった項目について、課題となっていることがあれば、自由に記述してください。

各校種とも「評価結果のフィードバック」や「学習カードやワークシート等の記述の分析」、「評価規準の設定」などの記述が多く見られた。その他に、小学校では「評価における教師間の共通理解や鑑賞の評価方法」について、中学校では「評価計画の作成」や「評価時期の設定」について、高等学校では「学習カードやワークシートの工夫」についての記述が多く見られた。

## II 授業研究

### 【授業研究1】

感性や想像力を働かせて、思考力・判断力・表現力を育む図画工作科学学習指導と評価

—小学校第4学年「気球に乗って大空を旅しよう！」における表現と鑑賞の関連を図った学習活動と評価の工夫を通して—

#### 1 題材名 気球に乗って大空を旅しよう！

#### 2 題材の目標

夢の気球をつくることに関心をもち、感じたこと、想像したことを基に構想を練り、形や色を工夫して表すとともに、自分たちの作品についてよさや面白さを感じ取る。

#### 3 題材設定の理由

本題材は、ふくらませた風船を型にして半紙で球状の張り子をつくり、張り子の形や「気球」という言葉からイメージをもち、夢の気球づくりをして、工作に表すものである。身近な半紙や小麦粉でつくったでんぷん糊を使って張り子をつくり、そこから夢の気球づくりをするという活動は、児童にとって造形活動への意欲や発想を喚起することができると思う。

本学級の児童は、これまでの学習で、友人との相互鑑賞や少人数グループでの活動などを取り入れて学習を進めてきた。意識調査（平成26年9月2日実施、調査人数26人）では、1学期の学習について、友人と作品を見合ったり話し合ったりしたことで、自分の作品づくりに生かすことができたという児童が20人いた。このことから、表現の活動に相互鑑賞の場を設定したり、グループ形態で友人の作品を見たりしながら製作を進めることは、作品づくりに有効であることを実感している児童が多いことが分かった。また、授業での観察から、製作が滞っている児童が、友人と話をしたり作品を見たりすることでヒントを得て、つまづきを解消する姿が見られた。

そこで、本題材では、これまでの学習活動の工夫を更に充実させるため、まず、児童が自分なりの感性や想像力を十分に働かせることができるように題材設定を工夫する。この気球の製作は、張り子の形や「気球」という言葉から、一人一人がもつ大空へのあこがれを作品に込めることができ、幅広い表現をすることができる題材であると思う。次に、表現活動と鑑賞活動の関連を図った学習活動を行う。〔共通事項〕の視点で製作のアイデアを考えるワークシート及び考えを伝え合うメッセージカードを活用することや、少人数グループでの学習を基本として、製作途中の作品やワークシートを基に話し合う相互鑑賞の場を設定することで、児童は表現活動におけるイメージをふくらませることができると思う。さらに、教師は、学習計画表やワークシート等の記述を具体的な評価規準に即して評価し、児童の学習状況を把握した上で活動を支援する。

以上のように、表現と鑑賞の関連を図った学習活動と評価の工夫を行うことを通して、思考力・判断力・表現力を育むことができると考え、本題材を設定した。

#### 4 主題に迫る具体の手立て

##### (1) 〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた表現の指導の工夫

ア ワークシート、メッセージカードの活用

〔共通事項〕の視点でアイデアスケッチができるように、資料1のようにワークシートを工夫して活用する。このことで、児童が形や色、組合せの感じなどを意識しながら夢の気球のアイデアを考えられるようにする。さらに、アイデアスケッチや製作途中の作品を児童同士で鑑賞した際の感想を、メッセージカードに記入して相手に贈るようにする。もらったメッセージカードは、ワークシートに貼っておくことで、常に確認をしながら製作を進めることができるようにする。

イ 表現と鑑賞の関連を図る場の工夫

表現活動では、少人数グループでの活動を基本とする。児童は、友人の活動を参考にしたり、表現のヒントを得たりしながら、自分のイメージをふくらませることができると思う。また、友人との話し合いでは、ワークシートの記述を確認しながら、自分のアイデアを〔共通事項〕を視点にして伝え合うようにする。一方、少人数グループ内の活動では、表現が似通ったり、ヒントがあまり得られなくなったりすることも考えられるため、各グループでの学びを、教師が学級全体にフィードバックする場を設定したり、グループ間を意図的につなぐようにしたりする。

##### (2) 児童の学習状況を適切に評価し、指導に生かす工夫

ア 学習計画表の活用

毎時の学習計画やめあてを明示した学習計画表を活用することで、児童が学習のねらいや活動の見通しをもてるようにする。また、毎時の授業でねらいに対する自己評価を記入させることで、教師があらかじめ設定した具体的な評価規準に即して、児童一人一人の学習状況を把握し、指導に生かせるようにする。

イ ワークシートによる児童の学習状況の評価

ワークシートは、児童が学習活動に用いるだけでなく、教師が評価をする上で重要な資料であるとする。ワークシートの絵や文章などから、児童の学習状況を具体的な評価規準に即して評価し、コメントを書いた付箋を付けて返却したり、評価したことを次時の学習指導に生かしたりする。

##### 資料1 ワークシートの工夫

「気球に乗って大空を旅しよう!」アイデアスケッチ	
4年組 番:名前( )	
気球の名前	
作品のイメージや、形、色などを 絵や文章で表す。 色鉛筆などで着色してもよい。	夢の気球のスケッチ
使う材料や、作り方などを書く。	次時に工夫したいことを書く。
	教師からの助言を付箋に 書いて貼る。
メッセージカードをはろう	
友人からもらった メッセージカードを貼る。	



## 5 授業の実際

### (1) 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
①球状の張り子から発想を広げて、つくりたいものを探したり工夫したりしている。 ②自分や友人の作品のよさや面白さを自分の思いで味わおうとしている。	①紙の張り子や様々な材料からつくりたい気球を思い付いて、つくり方を考えている。 ②つくりながら形や色を考えている。	①自分のつくりたいものに合わせて、材料の使い方やつくり方を工夫して表している。	①感じたことを話したり、書いたりしながら形や色、表し方の違いなどを捉え、よさや面白さを感じ取っている。

### (2) 指導と評価の計画（8時間扱い）

次	時	○ねらい ・学習活動	評価規準	評価方法、留意点等
1	1	○風船や和紙から、球体の張り子をつくる。 ・材料に触れて、感触や特性をつかむ。 ・でんぷん糊を使って和紙を風船に貼る。 2 ・感じたことや気付いたことについて話し合う。 ・張り子を仕上げる。		題材への興味・関心が高まっているかを観察から捉え、次の段階での評価の資料とする。
2	3 本 時 4	○張り子から発想を広げて、つくりたい気球を思い付いたり、つくり方を考えたりする。 ・作品の形や色、気球の名前や物語について考えたことを、ワークシートに絵や文章で表す。 ・考えたことを発表し合う。	関①  発①	関①, 発①ワークシートに自分のアイデアを表せていない児童を中心に支援をする。  (観察, ワークシート)
3	5 6 7	○発想したことを形や色で工夫して表す。 ・めあてをカードに書く。 ・張り子にカッターで切り込みを入れて、風船を抜く。 ・張り子を着色する。 ・飾りや付属品をつくる。 7 ・メッセージカードを書いて友人のワークシートに貼る。 ・更に工夫したいことをワークシートに書く。	関①  発②  技①	関①活動の様子から見取って声をかけ、状況に応じて意欲付けをする。 (観察) 発②前半は構想がまとまらない児童を見取り支援する。完成が近づく製作の後半に評価を確定していく。 (観察, 作品) 技①表現が工夫できていない児童を見取り支援する。完成が近づく製作の後半から評価を確定していく。 (観察, 作品)
4	8	○自他の作品のよさや面白さを感じ取る。 ・作品を相互鑑賞して、気付いたことや感じたことをメッセージカードに書く。 ・メッセージカードを友人の鑑賞カードに貼り、よさや面白さについて発表する。 ・学習を振り返り、感想をワークシートにまとめる。	関②  鑑①	関②視点をもって感じ取ろうとする態度などを見取る。 (観察, ワークシート) 鑑①根拠に基づいて自分の考えを述べているかなどを見取る。 (観察, メッセージカード)

### (3) 本時の学習（第3時）

#### ア 目標

和紙でつくった張り子からイメージを広げ、つくりたい気球を思い付いたり、つくり方を考えたりすることができる。

#### イ 準備・資料

教師…風船，半紙，ペットボトル・牛乳パック等の材料，デジタルカメラ，ワークシート，メッセージカード，掲示物（学習のめあて）

児童…色鉛筆，材料，図工ファイル

#### ウ 展開

学習活動・内容	・指導上の留意点，◎評価（A：具体例，C：手立て）
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">空にうかぶ夢の気球を考えよう！</div> <p>2 ワークシートに学習のめあてを記入して活動を明確にする。</p> <p>3 発想したことを，絵や文章でワークシートに表す。</p> <p>(1) 作品名を考える。</p> <p>(2) 形や色を考える。</p> <p>(3) 飾りや付属品を考える。</p> <p>(4) 自分で用意する材料を考える。</p> <p>4 自他の作品のよさや面白さを感じ取る。</p> <p>(1) グループで，考えたことを発表し合い，メッセージカードを書いて友人に渡す。</p> <p>(2) 更に工夫したいことを，ワークシートに絵や文章で表す。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・指導上の留意点，◎評価（A：具体例，C：手立て）</p> <p>・本時の学習課題と張り子の球体を見せ，児童が学習への見通しをもてるようにする。</p> <p>・無装飾の白い張り子が，着色や飾り付けで自分独自の気球になることを伝え，意欲やイメージを喚起する。</p> <p>・少人数グループをつくって，話し合いながら活動できるようにすることで，友人の考えを参考にしながら気球のアイデアが考えられるようにする。</p> <p>◎球状の張り子から発想を広げて，つくりたいものを探したり工夫したりしている。 (観察)</p> <p>A：積極的に友人と話したり考えをいかしたりしながら，つくりたいものを探したり工夫したりしている。</p> <p>C：対話することでつまずきの要因をつかみ，活動を支援する。</p> <p>◎張り子や様々な材料からつくりたい気球を思い付いて，つくり方を考えている。 (観察，ワークシート)</p> <p>A：複数のアイデアを思い付き，選びながら考えている。</p> <p>C：空に浮かんでいると楽しい物や，自分が好きな物などから考えられるように支援する。</p> <p>・グループで，司会者と発表順を決め，言葉やワークシートの絵や文章で説明するよう促す。</p> <p>・話し合いの中で，友人の助言などから得たヒントや新たに気付いたことなどを，ワークシートにかき加えるように助言する。</p> <p>・本時の学習で発想や構想できたことや，友人との話し合いでよかったこと，更に工夫したいことなどを発表させ，児童が次時のめあてをもてるようにする。</p> <p>・本時の学習の成果を確認し，次時の学習に生かすことができるようにする。</p>

## 6 授業の分析と考察

### (1) 〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた表現の指導の工夫

#### ア ワークシート・メッセージカードの工夫

アイデアスケッチをする場面では、作品の形や色、組合せなどのイメージを喚起するために、天井に吊るした無装飾の張り子や、材料となるペットボトルや空き箱などを提示した。児童は、吊るしてある無装飾の張り子を見ながら、どのようなイメージの「夢の気球」にするか、意欲的に考えることができた。資料2は、児童がかいたアイデアスケッチ（部分）である。ワークシートには、気球の形を絵で表すとともに、余白の部分に、形や色、組合せの感じや、使う材料や作り方などを記入することができた。このことで、自分がつくりたい気球について、具体的なイメージをもつことができたと考える。

資料3は、アイデアスケッチや作品を鑑賞した際の感想を相手に贈るメッセージカードの記述である。児童は、メッセージカードに書かれている友人からの評価や助言を生かしながら、更にアイデアや表現を工夫することができた。

#### イ 表現と鑑賞の関連を図る場の工夫

資料4（p.10）は、児童の会話の記録を抜粋したものである。アイデアスケッチを行う際に、少人数グループでの学習活動を取り入れたことで、児童は、思い付いたことを友人と伝え合ったり、アイデアが浮かばず困っていることについて、「どうしたらいいかな。」と尋ね合ったりしながら、友人の言葉に共感したり、助言したりする場面が多く見られた。また、児童から教師に対して、表現に関しての質問があったが、同じグループの友人に、「〇〇さんが困っているけれど、どう思う。」、「どうしたらできそうかな。誰かいいアイデアがあるかな。」といった言葉を投げかけると、児童は互いに有効な助言をし合うことができた。次時の授業導入時には、児童一人一人に、グループ内で作品のテーマや材料、これからどのように表現を広げていきたいかについて短時間で発表をさせた。そのため、前時で考えた作品のイメージや作り方について、説明をしながら頭の中で整理したり、新たな工夫を思い付いたりすることができた。一方で、少人数グループの中だけで学習を進めていくと、グループ内で表現が似通ったり、イメージを広げるヒントが不足したりする様子も見られた。そのため、アイデアスケッチ

資料2 アイデアスケッチ（部分）



資料3 メッセージカードの記述

- ・気球に羽根を付けたり、家などをかいたりするところがすごいと思います。
- ・水族館のイルカがかわいいね！他にも、いろいろな魚をかいてみたらどうかな？
- ・ゴンドラと気球をつなぐ糸を、キラキラのモールにしてきれいだね。
- ・スパンコールを付けるなんて、いいアイデアだね。お花の気球が飛んでいたらかわいいね。
- ・カメの頭を、くつ下に綿をつめて作るなんてすごいね。足やしっぽはどう作るのか教えて。
- ・クマの気球かわいいね。紙コップをカラフルにしてきれいにするとどうかな。

を実物投影機で掲示しながら，数人の気球のアイデアを，クラス全体に説明する場を設けた。自分たちのグループにはなかった新たなアイデアを知って，多くの感嘆の声が上がった。また，発表した児童は，多くの友人から助言を受け，前時まで気付かなかった表現方法に気が付き，アイデアを更にふくらませることができていた。

また，教師によるグループや学級全体への支援では，児童のつまずきに対して，友人のアイデアスケッチや材料，既習の表現技法に考えをつなぐことで，児童が自らヒントになるものを取捨選択したり，表現方法を工夫したりすることを重視した。そのことによって，グループや全体での児童同士の話し合いが活発になり，児童一人一人が思考・判断し，自分の考えを表現することができたと考える。

資料4 児童の会話の記録（抜粋）

製作に関する発言・相談	友人の発言・助言
・毛糸を使っても大丈夫かな。	・どこに使うの。ゴンドラを吊るすの。吊るすひももきれいになるね。
・かめにしたいな。甲羅の絵をかくんだ。	・かめの頭，足とかしっぽはどうやってつくるのかな。
・気球にプロペラを付けたい。プロペラを回せるようにしたい。	・電池とモーター付けられないかな。理科の実験で使ったよね。でも，重いかな。
・気球の下に家を付けたいな。家ごと，世界中を旅するイメージなんだ。	・すごいアイデアだね。何を使って家を作るの。
・スパンコール使ってもいいのかな。	・いいと思うよ。キラキラしてきれいじゃないかな。 ・気球にもゴンドラにも飾りに使えそう。
・へびの気球と，お城の気球のどちらにするか迷うなあ。	・どちらもおもしろいね。へびの気球だと細長くなったりするのかな。お城は気球の上かな。それともゴンドラになるのかな。

(2) 児童の学習状況を適切に評価し，指導に生かす工夫

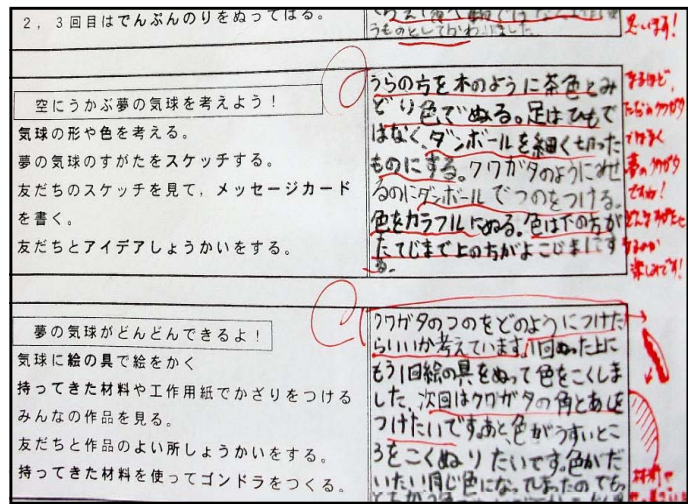
ア 学習計画書の活用

資料5は，児童の学習活動の感想が書かれた学習計画表である。学習計画表には，学習のめあてや活動内容を明示し，児童が感想を書く際に，めあてや活動内容についてどうであったかを記入するようにした。このことで，教師は，授業中の観察と併せて児童の学習状況を把握し，適切に評価することに役立てることができた。

また，児童の記述に関して，教師がコメントを記入して返却することで，児童は，それを生かしながら次時の活動を進めることができた。

自分の考えを文章で表すことが苦手で，初めは何も書かずに空欄であった児童も，教師が「小麦粉に触ったり，混ぜたりしたときに，どんな手触りだったかな。」，「どうして，この気球を思いついたのかな。」といった質問をすることで，感じたことや考えたことを思い付いて書くことができ，製作に生かすことができた。

資料5 学習活動の感想が書かれた学習計画表

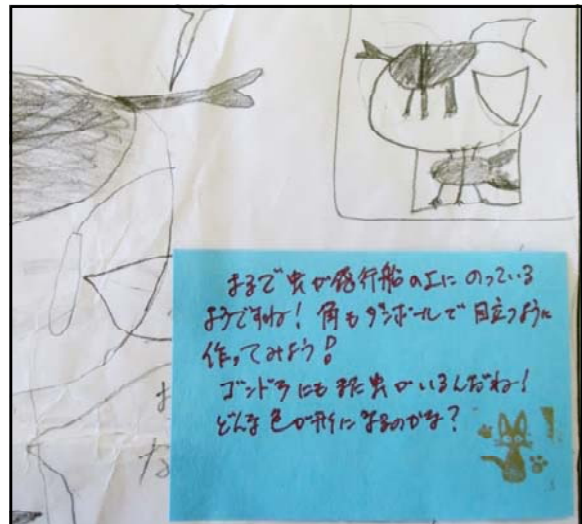


イ ワークシートによる児童の学習状況の評価

資料6 (p. 11) は，教師が児童のワークシートを確認した後に，付箋にコメントを記入して貼ったものである。教師は，学習活動での観察と併せて児童のワークシート

の記述を確認することにより、学習状況を具体的に把握することができた。また、付箋にコメントを記入する際には、具体的な指示よりも、「もっとお花いっぱい作品にするには、どんな工夫があるかな。」、「このゴンドラは、どんな材料を使ったらうまくできるだろう。」、「どうしたらじょうぶにせっちやくできるかな。」といった発問を記入して返却するようにした。この教師のコメントを基に、児童は自分で思考・判断し、解決の糸口をつかむことができた。

#### 資料6 付箋に書いた教師のコメント



## 7 授業研究の成果と課題

### (1) 成果

〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた表現の指導の工夫では、〔共通事項〕の視点でアイデアスケッチができるように、ワークシートを工夫して活用したり、アイデアスケッチや鑑賞したことの感想をメッセージカードに書いて伝え合ったりしたことで、児童は、自分がつくりたい気球について具体的なイメージをもつことができた。また、少人数グループでの活動を取り入れ、児童同士の関わりを促したことで、友人の活動を参考にしたり作品を鑑賞したりすることができ、児童は自分のイメージを確認したり、新たな表し方を見付けたりすることができた。

児童の学習状況を適切に評価し、指導に生かす工夫では、学習計画表を活用したことで、教師は、児童の学習到達度を把握することができ、評価結果を基に、児童にフィードバックすることができた。このことで、児童は、更に主体的に形や色のイメージを広げたり、表し方を工夫したりすることができた。また、ワークシートから児童の学習状況を評価して、コメントを付箋に記述して渡したり、次時の指導に生かしたりしたことは、児童の表現活動を更に促すことにつながった。

以上のことから、〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けて学習活動と評価の工夫をしたことは、児童の、思考力・判断力・表現力を育むための手立てとして効果があったと考える。

### (2) 課題

今回の研究では、学習計画表やワークシートを、児童の思考力・判断力・表現力を育んだり教師が学習状況を評価したりするための手立てとしたため、学習活動の中で、これらの記入にかかる時間が多くなりがちであった。今後、児童の資質や能力を更に高め、短時間で活用できるように内容の改善を図っていきたい。

## 【授業研究 2】

### 感性や想像力を働かせて、思考力・判断力・表現力を育む美術科学習指導と評価

#### —中学校第1学年「自分の言葉で表現しよう～美しさの伝え方～」における根拠をもって伝え合う学習活動と評価の工夫を通して—

1 題材名 自分の言葉で表現しよう～「美しさ」の伝え方～

### 2 題材の目標

自分の身の回りにある自然物や人工物に関心を持ち、形や色彩などから、造形的なよさや美しさを感じ取り味わう。

### 3 題材設定の理由

本題材は、自分の身の回りにある自然物や人工物を鑑賞し、造形的なよさや美しさを感じ取るものである。中学校学習指導要領解説美術編（平成20年9月）の内容「B鑑賞」

（1）のアには、「作品などに対する思いや考えを説明し合うなどして、対象の見方や感じ方を広げること」と示されている。本題材では、自分が美しいと感じるものを鑑賞の対象とすることで、思いや考えをもちやすくなり、そのことを説明し合いながら、見方や感じ方を広げることができる考える。

本学級の生徒は、美術の授業に意欲的に取り組んでいる。しかし、鑑賞活動では、意欲が停滞してしまう生徒が少なくない。鑑賞したことの記述を見ても、上手や下手、好きや嫌いという簡単な捉え方のみで終わってしまう状況が見られる。鑑賞に関する意識調査（平成26年6月12日実施、調査人数34人）を行ったところ、どうしてその作品がよいのかよく分からないと考えている生徒が10人、自分の意見を書いたり、発表したりすることが難しいと考える生徒が15人と、鑑賞活動において、作品等のよさや美しさを感じ取ることや、自分の思いや考えを説明することに課題があることが分かった。

そこで、本題材では、まず、生徒一人一人の関心や意欲が高まるように、自分の身の回りにあり興味・関心をもてる自然物や人工物を鑑賞の対象とする。このことによって、生徒は、自分なりの感性を働かせながら、対象物を選び、鑑賞をすることができる考える。次に、ワークシートを活用しながら、〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする鑑賞活動を行う。ワークシートには、自分が美しいと思うことの根拠について、形や色彩の特徴などを基に記入し、思いや考えを明確にする。また、相互鑑賞をする際には、学習形態を工夫して、ペアからグループ、そして全体での話し合いへと段階的に行うことで、自分が考える美しさについて根拠を明確にしながら伝え合うことができるようにする。さらに、学習過程を工夫して、生徒の学習状況の観察とワークシートの記述を基にした評価を行い、座席表に記入して把握することで、次時への学習指導に生かせるようにする。

以上のように、思いや考えを明確にするワークシートの活用と学習形態の工夫を通して言語活動の充実を図ることや、生徒の学習状況を把握し評価したことを指導に生かす

工夫をすることで、生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができると考え、本題材を設定した。

#### 4 主題に迫る具体の手立て

##### (1) 〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた鑑賞の指導の工夫

###### ア 〔共通事項〕を視点としたワークシートの工夫と活用

本題材では、〔共通事項〕を視点に考えを伝え合うことができるように、ワークシートを工夫して活用する。資料1に、鑑賞活動で使用するワークシートを示す。自分が美しいと考える対象物をワークシートの中央に記入し、実線の吹き出しには、形や色彩などの性質や感情など、その対象物が美しいと思う根拠を書き入れることとする。生徒は、自分が美しいと思うことの原因が明確になるため、友人と考えを伝え合う際に、ワークシートを有効に活用できると考える。また、点線の吹き出しには、友人が行った鑑賞で、自分にはなかった視点での新たな気づきを書くようにする。これらの活動を通して、生徒は、自分が美しいと考える対象物への視点を深めることができると考える。

###### イ 学習形態の工夫

充実した言語活動を行うために、ワークシートの記述を基に教師が意図的にペアリングやグルーピングを行う。まず、ペアでの話し合い活動を行う。ここでは、同じような鑑賞の対象を選んだ生徒同士にすることで、自分の考えを安心して伝えるとともに選んだ対象物の新たな美しさに気付けるようにする。次に、グループでの話し合い活動を行う。ここでは、違った鑑賞の対象を選んだ生徒同士が話し合えるようにする。自分が選択した物の美しさについて伝えるとともに、自分が選ばなかった対象物の美しさについても鑑賞できるようにすることで、十分に思考・判断し、表現することができるように考える。

##### (2) 生徒の学習状況を適切に評価し、指導に生かす工夫

###### ア 評価結果をフィードバックするための学習過程の工夫

生徒の活動状況を適切に評価し、鑑賞の能力を高めることができるように、学習過程を工夫する。本題材を2時間扱いとし、1時間目に生徒一人一人が美しいと思える対象を選択し、その根拠を考える時間を設定する。このことで、教師は、1時間目の活動の様子やワークシートの記述から、生徒一人一人の学習状況を把握することができるように考える。また、返却するワークシートにはコメントを記入し、生徒

##### 資料1 鑑賞で使用するワークシート

自分の言葉で表現しよう～「美しさ」の伝え方～②

1年 組 番 名前

私が「美しい」と思うものは ( )

～見つけた言葉を使って、自分の思う「美しさ」を伝えよう!～

が次時の活動で参考にできるようにする。2時間目はペアやグループ，全体での相互鑑賞を行うが，教師は事前に個々の生徒の学習状況を把握しておくことで，適切に活動を支援することができると思う。

イ 学習状況を見取るための座席表の活用

授業での生徒の会話やつぶやき，学習の様子などを簡単に書き留められるように，座席表を活用する。生徒同士のかかわりを線で結んだり，記号を決めて記入したりすることで，一人一人の学習状況を素早く記録し，確認する際にも把握しやすくすることができると思う。

## 5 授業の実際

### (1) 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
①身の回りにあるものの造形的なよさや美しさに関心を持ち，主体的に感じ取ろうとしている。 ②身の回りにあるもののよさや美しさについて，形や色彩などの視点から主体的に感じ取ろうとしている。	①自分の身の回りにあるものの形や色彩などから，そのよさや美しさを感じ取り，自分の思いや考えをもって味わっている。

### (2) 指導と評価の計画（2時間扱い）

時	○ねらい・学習活動	評価規準	評価方法，留意点等
1	○身の回りにあるものから，鑑賞の対象とするものを選ぶ。 ・何を鑑賞の対象とするか考え，その根拠をワークシートに記入する。	関①	関①観察やワークシートの記述から，関心や意欲がもてない生徒を見取り，生活の場面や自分が好きなもの等から考えるように促す。  (観察，ワークシート)
2 本 時	○鑑賞の対象のもつよさや美しさについて，根拠をもって伝え合う。 ・鑑賞の対象としたものについて，自分の考えや感じたことをワークシートに記入する。 ・ペアやグループになり，お互いの思いや考えについて話し合う。 ・実物投影機を使った発表を聞き，友人の思いや考えについて知る。 ・話合いや友人の発表から，感じたことや，自分が思う美しさについて，ワークシートにまとめる。	関②  鑑①	関②観察やワークシートの記述から，関心や意欲を見取り，生徒が選んだ鑑賞の対象について教師の考えを伝えることで，生徒が自信をもって取り組めるようにする。  (観察，ワークシート)  鑑①自分の考えを，根拠に基づいて書いたり伝えたりすることができない生徒を見取り，〔共通事項〕の視点から美しいと思う根拠について考えられるように支援する。  (観察，対話，ワークシート)

### (3) 本時の学習（第2時）

ア 目標

自分の身の回りにある自然物や人工物の形や色彩などから，そのよさや美しさを感じ取り，自分の思いや考えをもって味わうことができる。



イ 準備・資料

教師…ワークシート，実物投影機，ペア・グループ分け一覧

生徒…自分が美しいと思うもの，筆記用具

ウ 展開

学習活動・内容	・ 指導上の留意点，◎評価（A：具体例，C：手立て）
<p>1 本時の課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     自分の感じる美しさを，自分の言葉で表現しよう。                 </div> <p>2 対象について話し合う。</p> <p>(1) 対象について，自分の思いや考えたことをワークシートに記入する。</p> <p>(2) ペアになり，自分の対象に対する考えを話し合う。</p> <p>(3) 話合いで新たに気付いた表現や言葉を使い，ワークシートに記入する。</p> <p>(4) グループになり，お互いの対象について話し合う。</p> <p>(5) 実物投影機を使った全体への発表を聞き，友人の考えを知る。</p> <p>3 話合いや発表から感じたことや，自分の思いや考えなどをワークシートにまとめる。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・ 前時のワークシートを基にして，鑑賞の対象が同じ人や似た人でペアを作ったことを伝える。</p> <p>・ 各自で準備したものについて，ペアとグループになって説明し合うことを伝える。</p> <p>・ 話し合う際のポイントを黒板脇に掲示し，迷った時に確認できるようにする。</p> <p>・ ワークシートには，美しいと思う根拠を実線の吹き出しに記入し，話合いの中で新たに気付いたことなどを点線の吹き出しに記入することを説明する。</p> <p>・ 自分の考えを文章にまとめることができない生徒には，前時のワークシートを使い，考えを整理してから記入するよう促す。</p> <p>・ 友人に自分の考えをどのように伝えるかを，〔共通事項〕の視点を意識して考えることを確認する。</p> <p>◎自分が選んだもののよさや美しさについて，形や色彩などの視点から主体的に感じ取ろうとしている。 (観察，ワークシート)</p> <p>A：友人と積極的に話し合うことで，対象としたものの美しさについて主体的に感じ取ろうとしている。</p> <p>C：生徒が選んだ鑑賞の対象についてよさを認めて伝えることで，生徒が自信をもって取り組めるように支援する。</p> <p>◎自分の身の回りにあるものの形や色彩などから，そのよさや美しさを感じ取り，自分の思いや考えをもって味わっている。 (観察，ワークシート)</p> <p>A：友人が選んだ対象の形や色彩などから，そのよさや美しさを多く感じ取り，自分の思いをもって味わっている。</p> <p>C：生徒の話聞きながら，美しいと思う根拠について，形や色彩，材料などの視点から根拠を考えられるように支援する。 (観察，ワークシート)</p> <p>・ 話合いや発表から，自分の選んだものが美しいと思う根拠についても一度振り返り，よさや美しさについての自分の考えをワークシートにまとめるよう促す。</p> <p>・ 本時の成果を認め，学んだことをこれからの学習に生かしていくように話をする。</p>

## 6 授業の分析と考察

### (1) 〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた鑑賞の指導の工夫

#### ア 〔共通事項〕を視点としたワークシートの工夫と活用

資料2は、ワークシートの記述の抜粋である。生徒は、自分が選んだ物が美しいと思う根拠を、形や色彩の特徴などを基にワークシートに記入したことで、自分の思いや考えの根拠について明確にすることができた。また、これまでは漠然と捉えていたイメージについて、〔共通事項〕の視点で根拠をもったことで、自分が書いたワークシートの記述を確認しながら、自信をも

って自分の思いや考えを伝えることができた。さらに、他者との意見の違いに対しても「それぞれ感じ方が違う」や「そんな見方があったのか」という捉え方をする生徒もいた。これは、自分の美しいというイメージに根拠をもったことで、相手と意見が違っていても、それは考え方や感じ方の違いであるということに気付き、自分の思いや感じたことが、鑑賞において重要であることに気付くことができたためと考える。また、そのことで、他者との感じ方や考え方の違いを比較したり、自分にはない新たな見方や感じ方に気付き、受け入れたりすることができたと考える。

#### イ 学習形態の工夫

本題材の1時間目に、自分が美しいと思う対象物を選んでその根拠を考えた後、2時間目に、学習形態を工夫して鑑賞活動を行った。最初は同じような対象物を選んだ生徒同士でペアワークを行ったが、美しいと思う対象が似ていることで、生徒は、自分の意見に同意してくれるだろうという安心感をもちながら伝え合うことができた。また、自分では言葉にすることができなかつた思いを、友人がうまく表現することに喜んだり、自分では気付かなかつた視点で鑑賞していることに驚きをもったりする生徒の姿が見られた。ペアワークを位置付けたことで、生徒は自分の思いや考えを確認したり、新たな気付きを得たりすることができたと考える。

資料3は、グループワークで話し合う生徒の様子である。ペアワークの後に、違った鑑賞の対象を選んだ生徒同士がグループをつくって話し合った。生徒は一度、ペアワークで自分が選んだ美しいと思う物について、根拠を明確にして伝え合つたので、グループワークでも、しっかりと自分の考えを伝えることができていた。また、友人の

#### 資料2 ワークシートの記述（抜粋）

- ・「花が開いているときは若い感じ、しおれているときは歳をとっている感じ」
- ・「海のように光が反射していてきれい」
- ・「鮮やかな青が海の色みたいに見えて美しい」
- ・「赤いビー玉は太陽のように、黄色いビー玉は満月のよう」
- ・「曲線が太陽の光がキラキラ輝いているように見えて、夏の晴れの日の海みたいで美しい」

#### 資料3 グループワークの様子



説明を聞いている生徒は、自分が選ばなかったものの美しさについて、興味をもって聞き、説明に対しての感想や自分が考える美しさについて意見を述べることができた。

さらに、グループ内での鑑賞を全体に広げるために、数人の生徒が実物投影機を用いて発表する場を設けた。発表者を選んだ基準は、美しいと思う対象とその根拠が、他には見られない独創性のあるものとした。そのため、全体発表の場では、対象物の美しいと思う根拠が説明されると、聞いている生徒から自然と拍手が起こったり、多くの感想や意見が出されたりした。これは、生徒一人一人が、ペアやグループになって伝え合ってきた過程で、自分なりの美しさの視点をもつことができたためと考える。

## (2) 生徒の学習状況を適切に評価し、指導に生かす工夫

### ア 評価結果をフィードバックするための学習過程の工夫

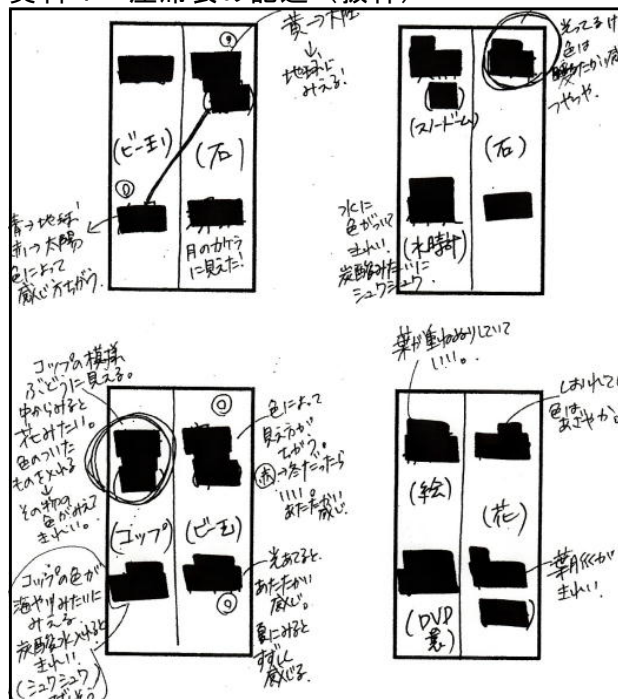
1時間目には、生徒一人一人が、美しいと感じられるものを考え、ワークシートにその根拠を書き表すようにした。〔共通事項〕の視点で、形や色彩などを基にして根拠をもった考えを記入する生徒がいる一方、根拠を示さずに、「冷たい感じ」や「宝石みたい」等のイメージのみを記述する生徒もいた。そのため、教師から、ワークシートに、〔共通事項〕の視点からイメージを捉え直すことができるようなコメントを記入して返却した。その結果、生徒は、教師からのコメントを自分で根拠をもって考えるヒントとすることができた。2時間目には、ペアやグループ、全体での相互鑑賞を行った。生徒は、この活動までに、鑑賞の対象物を各自で用意していたため、積極的に取り組むことができた。また、教師は、前時の活動の状況やワークシートの記述から、生徒の学習状況を把握していたため、一人一人の活動を適切に支援することができたと考える。

### イ 学習状況を見取るための座席表の活用

生徒一人一人の学習状況を見取り、評価したことを指導に生かすために座席表を活用した。資料4は、1時間目の授業後に教師が作成したペアワーク用の座席表の記述

(抜粋)である。鑑賞の対象物や生徒が考える美しさの根拠などについて、余白に記入しておくことにより、一人一人の思いや考えを把握することができた。また、この座席表を活用することで、同じような対象物を選んだ生徒同士の考えの類似点や相違点などについて把握することが容易になり、ペアワークの際に、教師が、生徒同士の思いや考えをつなぎ、鑑賞を促すことができた。この座席表はグループ用のものも同様に作成し、学習の過程で新たに気付いたことや学習活動に即した評価規準を基に評価したことを、記号で表したり、キーワードを簡潔に書き加えたりして活用することができた。こ

資料4 座席表の記述(抜粋)



のように、生徒の学習状況や評価をまとめて座席表に記入することにより、生徒の学習状況を適切に見取り、学習活動の支援を行うことができたと考える。

## 7 授業研究の成果と課題

### (1) 成果

〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた表現の指導の工夫では、〔共通事項〕を視点としたワークシートの工夫と活用を行ったことで、生徒は鑑賞の対象としたものがもつ美しさの根拠について考え、その根拠を明確にすることができた。また、意図的にペアリングやグルーピングを行うなどの学習形態の工夫を行ったことで、生徒は自分の考えや根拠を伝え合い、新たな気づきを得ることができた。

生徒の学習状況を適切に評価し、指導に生かす工夫では、学習過程の工夫を行ったことで、教師は、生徒の学習状況を段階的に把握し、評価したことを指導に生かすことができた。また、座席表を活用して、一人一人の学習状況や評価をまとめて記録したことで、生徒の学習状況を適切に把握し、生徒間の思いや考えをつなぐなど、学習活動の支援を行うことができた。

以上のことから、〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けて学習を展開したり評価を工夫したりしたことは、生徒の思考力・判断力・表現力を育む手立てとして効果があったと考える。

### (2) 課題

今回の研究で題材とした鑑賞活動は、他学年でも設定できる内容である。今後は、鑑賞の対象について選択の範囲を検討したり、3年間を通した実施時期を検討したりするなどの改善を図ることで、生徒の鑑賞の能力を育んでいきたい。

### 【授業研究3】

## 感性や想像力を働かせて、思考力・判断力・表現力を育む美術科学習指導と評価

### —高等学校第2学年美術Ⅱ「こだわりのクロッキー」における思いや考えをもって表現するための学習活動と評価の工夫を通して—

#### 1 題材名 こだわりのクロッキー

#### 2 題材の目標

人物クロッキーにおいて、モデルから受けるイメージを基に主題を生成し、描画材による効果を生かして創造的に表現するとともに、他の生徒の作品から作者の思いや考え、表現の工夫などを感じ取り味わう。

#### 3 題材設定の理由

本題材は、対象を素早く描写するクロッキーにおいて、人物モデルから受けるイメージから自分の主題を生成し、描画材の特性を生かしながら制作するものである。高等学校学習指導要領解説芸術編（平成21年12月）では、美術Ⅱの指導に当たって、「題材の設定や導入の方法を工夫するなどし、既成の概念にとらわれない柔軟なものの見方を培い、新しい気付きや感動が生徒の中に生じるような指導が求められる。」と示されている。クロッキーは、主として鉛筆などの描画材を使用し、対象の特徴をとらえ素早く描写する活動であるが、生徒の実態や育成したい資質や能力を踏まえ、題材を工夫し、より効果的に実施することが可能であると考ええる。

本校は、素直な生徒が多く、美術の授業でも与えられた課題にはしっかり取り組もうとする。しかし、指示された以上のことをやろうと積極的に行動をしたり、主体的に行動したりすることは少ない。これまでも「つくりたいものをつくる」というよりは、「つくれるものをつくる」、「何となくできた」という取組になりがちであった。

そこで、本題材では、人物クロッキーにおいて、感性や想像力を働かせながら主体的に取り組める活動を設定することによって、思考力・判断力・表現力を育むことができるのではないかと考える。まず、生徒が人物モデルから受けるイメージを基に主題を生成し表現の構想を練る活動を位置付ける。次に、自分の主題や構想を基に、表現を工夫しながらクロッキーをする。制作の過程では、ワークシートに自分の思いや考えを記入する機会を位置付けることで、「こんな思いを表現したくて描いた」という根拠を明確にした取組にする。さらに、鑑賞活動では、メッセージ交換や投票会を行うことで、生徒の主体的な活動を促し、根拠をもって伝え合うようにする。教師は、評価の観点ごとに内容を工夫したワークシートを活用することで、生徒一人一人の学習状況を把握するとともに、指導に生かすようにする。

以上のことから、人物クロッキーにおける、思いや考えをもって表現するための学習活動と評価の工夫を通して、思考力・判断力・表現力を育むことができるのではないかと考え、本題材を設定した。

#### 4 主題に迫る具体の手立て

##### (1) 〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた表現及び鑑賞の指導の工夫

###### ア 表現における描画材体験活動の設定

題材の導入では、様々な描画材や用紙を用意し、その表現効果について体験する活動を設ける。用意する描画材は、これまで扱ったことがないサインペン、パステル、葎ペンを取り入れ、生徒の意欲を喚起しながら自分に合った表現を見付けることができるようにする。また、描く用紙についても、クロッキー用紙の他に、画用紙、和紙を用意する。描画材と用紙の組合せの選択肢を増やすことで、生徒がクロッキーをする際に、思いや考えをもって活動できるようにする。

###### イ 主題や表現の構想を明確にするワークシートの活用

資料1は、自分が表現したい作品の主題と、描画材や用紙の選択を記入するワークシート（部分）である。生徒がクロッキーを行う前に、このワークシートを活用することで、作品制作の主題や構想を明確にできるようにする。なお、表現及び鑑賞で使用するワークシートは、まとめて冊子の形にすることで、生徒が活用したり教師に提出したりする際に、扱いやすいものにする。

資料1 主題や表現の構想を明確にするワークシート（部分）

☆人物クロッキー☆ ~クロッキーで「こだわり」たいことを明確にしよう!~		
描画材	用紙	表現したいこと(作品の主題)

###### ウ 作品鑑賞会におけるメッセージ交換と作品投票会

作品鑑賞会は、グループ鑑賞と全体鑑賞に分けて行う。資料2は、作品鑑賞会で使用するワークシート（部分）である。このワークシートに、まず、自分の作品の「こだわり」を記入し作品の脇に添えておく。このことで、生徒は、作品の主題や表現の工夫を確認しながら鑑賞できると考える。次に、グループごとに作品を鑑賞し、メッセージ交換の欄にメッセージを記入し合う。さらに、全員の作品の鑑賞後に、作品投票会の欄に、選んだ作品とその理由を記入する。その際、制作者の「こだわり」を参考にしながら、制作者自身も気付かない作品の魅力を発掘するような気持ちで記入するよう助言をするとともに、イメージの基になる形や色彩などを根拠にすることを指導する。また、ワークシートに記入するだけの活動にならないように、作品の制作者に質問をしたり言葉かけをしたりするなど、生徒が互いに伝え合う雰囲気づくりにも配慮したい。

資料2 作品鑑賞会で使用するワークシート（部分）

☆作品鑑賞会☆ ~私の「こだわりのクロッキー」~		
描画材	用紙	私の「こだわり」はここ!!

☆メッセージ交換☆  
作品の第一印象や魅力的なところ、素敵!こだわってる!カッコいい!...など、制作者にメッセージを書こう!

氏名	メッセー ジ

☆作品投票会☆ 私が選ぶ BEST3! 制作者自身も気付かない作品の魅力を発掘しよう!  
素敵!こだわってる!カッコいい!...など、自分が気に入った作品を3つ選び、その理由も書こう!

	名前	その作品を選んだ理由
1		
2		

## (2) 生徒の学習状況を適切に評価し、指導に生かす工夫

生徒の思考力・判断力・表現力に係る評価の観点である「発想や構想の能力」と「鑑賞の能力」を基に、その学習状況を評価していく。そのため、ワークシートには表現活動と鑑賞活動の両方の内容を盛り込み、具体的な評価の視点を設ける。

表現活動では、「発想や構想の能力」の人物から受けるイメージを基に主題を生成し、表現方法の特性を生かして表現の構想を練っているかということ視点とする。また、学習過程で感じたり気付いたりしたことを記入する「学び・発見・気付きメモ」欄で、生徒の活動状況を把握する。鑑賞活動では、「鑑賞の能力」の作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深めているかということ視点とする。このように、ワークシートの記述から生徒の学習状況を具体的な評価規準に即して評価することで、生徒一人一人の学習指導に生かしていきたい。

## 5 授業の実際

### (1) 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想・構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
①クロッキーを自分のイメージに合わせて表現することに関心を持ち、主体的に取り組もうとしている。 ②作品の多様な表現に関心を持ち、主体的に作品のよさや美しさを感じ取り理解を深めようとしている。	①人物から受けるイメージを基に感性や想像力を働かせて主題を生成し、表現方法の特性を生かして、自分のイメージに合った表現の構想を練っている。	①意図に応じて描画材や用紙の特性を生かし、表現方法を工夫して、主題を追求して表現している。	①他の生徒の作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫などを感じ取り、作品などについて理解を深めている。

### (2) 指導と評価の計画（4時間扱い）

次	時	○ねらい・学習活動	評価規準	評価方法、留意点等
1	1	○様々な描画材体験をする。 ・画材を試す中で感じたことや気付いたことをワークシートに記入する。		題材への興味・関心が高まりを観察から捉え、次の段階での評価の資料とする。
2	2 3	○対象から受けるイメージを大切にしながら人物クロッキーを行う。 ・クロッキーをする。（15分間×4回） ・描画材の違いによる比較や感じたこと、気付いたこと等をワークシートに記入する。	関① 発① 技①	関①活動の様子を見取って声をかけ、状況に応じて意欲付けする。（観察） 発①主題が明確でない生徒を確認し、支援する。（観察、ワークシート） 技①表現の工夫が、主題と合ったものになっているかを見取る。（作品）
3	4	○自他の作品のもつよさなどについて、根拠をもって伝え合う。 ・作品とワークシートの「こだわり」を照らし合わせながら鑑賞し合う。 ・ワークシートにメッセージを記入する。 ・気に入った作品を三つ選び理由を書く。	関② 鑑①	関②鑑賞の視点をもって感じ取ろうとする態度を見取る。 （観察、ワークシート） 鑑①根拠に基づいて自分の考えを述べているかを見取る。 （観察、ワークシート）

### (3) 本時の学習（第2時）

#### ア 目標

人物クロッキーに興味をもち、人物のイメージに合わせて描画材や用紙の特性を生かし、表現方法を工夫しながら表現することができる。

#### イ 準備・資料

教師…ワークシート，各種描画材・用紙

生徒…スケッチブック，筆

#### ウ 展開

学習活動・内容	・指導上の留意点，◎評価（A：具体例，C：手立て）
<p>1 本時の学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           人物のイメージに合わせて，描画材や用紙を工夫しながらクロッキーをしよう。         </div> <p>2 クロッキー（1枚目）を行う。</p> <p>(1) 人物のイメージに合った描画材を選ぶ。必要に応じて，いくつかの画材を組み合わせる。</p> <p>(2) ワークシートにクロッキーで表現したい「こだわり」を記入する。</p> <p>(3) イメージを大切にしながらクロッキーを行う。</p> <p>3 クロッキー（2枚目）を行う。</p> <p>(1) 人物のイメージに合った描画材を選ぶ。必要に応じて，いくつかの画材を組み合わせる。</p> <p>(2) ワークシートにクロッキーで表現したい「こだわり」を記入する。</p> <p>(3) イメージを大切にしながらクロッキーを行う。</p> <p>4 2回のクロッキーから，感じたことや気付いたこと，「こだわり」等について，ワークシートの「学び・発見・気付きメモ」に記入する。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>・指導上の留意点，◎評価（A：具体例，C：手立て）</p> <p>・人物から受けるイメージを大切にしながら主体的に活動できるように促す。</p> <p>・描画材体験で学んだことを確認し，表現に生かすように説明する。</p> <p>・活動状況を見ながら言葉かけを行い，生徒が意欲をもってクロッキーができるように雰囲気づくりに努める。</p> <p>・クロッキー終了後，自由に鑑賞し合う時間を設けることで，生徒が様々な表現方法に気付き，次のクロッキーへの意欲を高められるようにする。</p> <p>・特徴的な表現をしている作品を適宜紹介することで，生徒が，よりよい表現方法を考えたり，判断したりする機会になるようにする。</p> <p>◎クロッキーを自分のイメージに合わせて表現することに 関心をもち，主体的に取り組もうとしている。 （観察，ワークシート）</p> <p>A：自分のイメージに合わせて表現することに積極的に取り組んでいる。</p> <p>C：観察や会話の状況から，意欲的に取り組めるよう支援する。</p> <p>◎人物から受けるイメージを基に主題を生成し，表現方法の特性を生かして，自分のイメージに合った表現の構想を練っている。 （観察，作品，ワークシート）</p> <p>A：自分の主題に合わせて，描画材や用紙，描き方などから表現の構想を練っている。</p> <p>C：観察やワークシートから主題が明確でない生徒を見取り，表現したいことを考えられるように支援する。</p> <p>・人物から受けるイメージを基に主題を生成し，工夫して表現することができたかを確認し，声かけをする。</p> <p>・2枚のクロッキーを並べて，比較して振り返ることにより，自分の作品のよさや面白さ等を感じ取ったり味わったりし，次時の活動への意欲につながるようにする。</p>



## 6 授業の分析と考察

### (1) 〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた表現及び鑑賞の指導の工夫

#### ア 表現における描画材体験活動の設定

導入での描画材体験では、初めて扱う描画材もあったため、生徒は楽しみながら紙との組合せの相性や描画材の特性などを確かめることができた。資料3は、体験活動での感想をまとめたワークシートである。パステルと画用紙の組合せがよいことを記号で示し、ぼかしがきれいにできたことや、淡いイメージの作品に仕上がるといふ感想をもっている。他にも、

「かすれやにじみによって渋さや味を出せる。」などのように、人物から受けるイメージにつながる記述も多く見られた。このことから、描画材体験活動の設定は、描画材のよさや特性などの理解を深めるとともに、思いや考えをもって主体的にクロッキーに取り組むきっかけにもなったと考える。

#### イ 主題や表現の構想を明確にするワークシートの活用

自分の主題と表現の構想をワークシートに記入し、制作における思いや考えを明確にするようにしたことで、生徒は、何を主題とし、どのように表現するのかを考えながら制作することができた。資料4は、生徒の完成した作品とワークシートの記述である。この二つから、人物の「はっきりした性格」を表現することを主題とし、描画材の特性や用紙との組合せから表現の構想を練り、制作に生かしたことを読み取ることができる。他にも、「パステルのピンクとオレンジを使って、△△さんの明るい印象を表現した。紙はぼかすと柔らかい雰囲気を出せる和紙を使った。」、「荒々しくたくましい男らしさを表現するために、和紙をわざと裏面に使い、葦ペンにインクを薄くつけてかすれさせ、ガサガサにかいた。」など、自分の主題を表現するために、描画材の特性や用紙の扱い方を工夫して描く生徒も多くいた。このことから、ワークシートの内容を工夫して活用したことにより、生徒は、自分の思いや考えを明確にしながらかロッキーを行うことができたと考える。

資料3 ワークシートの記述

★描画材体験★ ～様々な描画材を試してみよう！～		
描画材	用紙	感想(扱いやすさ、表現の面白さなど)
サインペン	クロッキー用紙	○ 質感が少なくていい感じがいい。
	画用紙	○ 太さゆえに、手紙にまとまる感じがいい。
	和紙	× にくい。細かい線をかくには向いてない。
パステル	クロッキー用紙	△ おもしろい。たいてい描くときに、色をのせてみる。
	画用紙	◎ とてもいい感じがする。おもしろい作品ができてくる。
	和紙	△ ぼかしはいいが、質感はよく表現できる。
葦ペン インク	クロッキー用紙	× かすれやにじみがあまりない。かすれやにじみを出せる。
	画用紙	◎ 10年筆とか、かすれやにじみを出せる感じがいい。
	和紙	○ かすれやにじみを出せる感じがいい。とてもおもしろい。

資料4 完成した作品とワークシートの記述



〇〇さんからは、はっきりとした性格を感じるのので、画用紙の白とサインペンの濃くはっきりとした黒で、コントラストを強調させて描いた。

## ウ 作品鑑賞会におけるメッセージ交換と作品投票会

鑑賞会では、作品とともに「こだわり」を記入したワークシートに注目して鑑賞し、より深く味わおうとする姿が多く見られた。資料5は、鑑賞会で生徒が記述したメッセージの抜粋である。メッセージには、制作者の主題や表現の工夫を認めて称賛するものが数多くあった。また、「こだわり」の内容が読み取りづらい記述からも、キーワードとなる言葉を見付け、制作者の思いや考えなどを感じ取り、味わう姿が見られた。さらに、「葦ペンでこんなに細

### 資料5 メッセージの記述（抜粋）

- ・こだわりのとおり、力強さがとても伝わってくる絵だと思います。
- ・〇〇さんのスラーツとしていて、明るい性格をイメージしたオレンジを使っていて、見た目と内面をうまく表現できていて素晴らしいと思った。
- ・ボーイッシュな感じがすごく出ていて、カッコいい！オレンジを使っていて、すごく明るい方だと伝わってきます。
- ・女性らしさを出すのに、桃色のパステルと淡いぼかし方で、やわらかい女の子らしさがよく表現されています。

かく描けるなんて初めて知った。」、「人物の背景にパステルで色を入れることで、その人のイメージが伝わってくる。」など、描画材の新たな表現方法を知って称賛するメッセージや、技能が伴っていない作品であっても、「画面からはみ出しているが、大きく描いていて力強さがある。」など、制作者も気付かない視点から作品の魅力を見付け、丁寧に鑑賞する生徒が多く見られた。メッセージ交換が早く終了したグループの生徒は、他のグループに行き、グループを越えてメッセージ交換をするなど、積極的に交流する姿も多く見られた。

作品投票会「私が選ぶBEST3」では、メッセージ交換の後ということもあり、多くの生徒が鑑賞すべきポイントを素早く判断し、投票理由を考えて作品のよさや美しさなどを明確にすることができた。制作者の「こだわり」の記述を基に、主題を表現するための描画材の工夫が、人物のイメージに結び付いているかどうかを判断して投票する生徒が多く、技術的な側面だけで作品を判断しているのではなく、様々な視点から自分の価値意識をもって鑑賞していることが、ワークシートの記述から分かった。

メッセージ交換や作品投票会を通して、生徒はイメージや表現方法の多様性について理解を深め、制作者の思いや考えに基づきながら、言葉を使って作品を解釈したり価値を考えたりして作品を味わうことができたと考える。

## (2) 生徒の学習状況を適切に評価し、指導に生かす工夫

ワークシートには表現活動と鑑賞活動の両方の内容を盛り込み、具体的な評価の視点を設けて学習状況を評価した。表現活動における評価の観点「発想や構想の能力」では、人物から受けるイメージを基に主題を生成し、表現方法の特性を生かして表現の構想を練っているかということの評価の基準とした。教師は、作品とワークシートの記述を照らし合わせることによって、作品だけでは気付きにくい生徒の作品への思いや考えなどを読み取ることができ、どのように表現を工夫すれば、自分の主題が表現できるのかについての指導や助言に生かすことができた。また「学び・発見・気付キメモ」の記述からも、生徒が活動の中でどのような考えをもっていたのかについて

確認することができた。特に、技能が伴わないために発想や構想したことを作品に表現するのが難しい生徒に対する指導や助言において、ワークシートの内容を工夫して活用したことは大変有効であったと考える。

鑑賞活動における評価の観点「鑑賞の能力」では、他の生徒の作品のよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫などを感じ取り、作品についての理解を深めているかということの評価の基準とした。ワークシートの記述から、多くの生徒は、イメージや表現方法の多様性について理解を深め、制作者の思いや考えを踏まえながら、自分の価値意識をもって鑑賞できていたことが分かった。また、ワークシートに自分の考えが書けない生徒には、その場で声をかけ、思いや考えを聞いた上で、文章に表せるように支援を行うことができた。

## 7 授業研究の成果と課題

### (1) 成果

〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた指導の工夫では、鉛筆以外の様々な描画材や用紙を準備し、体験する機会を設定したことで、生徒の意欲を高め、主体的な取組を促すことができた。また、自分に合った表現方法を見付けることで、生徒が思考・判断する機会を生み出すこともできた。自分の主題や表現の構想を明確にするワークシートの活用では、作品制作を行う前に、表現の主題や表現方法などについて言葉で記入することにより、自分の思いや考えをもちながら表現することに生かすことができた。また、鑑賞活動では、思いや考えを伝え合うための手段として役立てることができた。

生徒の学習状況を適切に評価し、指導に生かす工夫では、ワークシートに評価の観点と関連付けた内容を設定し、学習活動に即した評価規準を基に生徒の記述を評価したことにより、生徒一人一人の学習状況に応じた支援をすることに効果があった。

以上のことから、〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けて学習活動と評価の工夫をしたことは、感性や想像力を働かせて思考力・判断力・表現力を育む手立てとして効果があったと考える。

### (2) 課題

今後も生徒が思考力・判断力・表現力を発揮できるような学習指導の展開について更に研究を進め、言語活動を通して生徒が互いの作品のよさなどについて認め合うことができるような指導を工夫していきたい。

### Ⅲ 研究のまとめ

#### 1 成果

〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた授業づくりを通して、感性や想像力を働かせて、思考力・判断力・表現力を育む図画工作・美術科学習指導と評価について授業研究を行い、次のような成果が見られた。

(1) 〔共通事項〕を視点に、かいたり伝え合ったりする言語活動を位置付けた表現及び鑑賞の指導の工夫

- ・小学校では、児童の感性や想像力を働かせる題材を設定し、ワークシートやメッセージカードを工夫して活用することや、表現と鑑賞の関連を図る場の工夫を通して、児童一人一人が新たな気付きを得たり、比較・検討したりしながら思考・判断し、思いや考えを伝え合うことができた。
- ・中学校では、生徒が興味・関心をもって鑑賞に取り組む題材を設定し、鑑賞活動でワークシートを活用したり、学習形態を工夫したりしながら、根拠をもって伝え合う活動を設定したことで、生徒は、自分の根拠を明確にしながらかし合ふことができた。
- ・高等学校では、クロッキーに、自分の主題を明確にする活動を設定して、思考・判断を促したことで、ワークシートを基に、かいたり伝え合ったりする活動を設定したことで、生徒は、思いや考えをもって表現したり鑑賞したりすることができた。

(2) 児童生徒の学習状況を適切に評価し、指導に生かす工夫

- ・小学校では、学習計画表に位置付けた自己評価や、ワークシート等の記述から学習状況を評価し、学習指導に生かしたことで、児童の発想や構想を促し、創意工夫して表現することにつなげることができた。
- ・中学校では、ワークシートや座席表を基に、生徒の思いや考えを見取って学習状況を評価し、学習指導に生かしたことで、生徒は、自分の思いや考えを深め、他者に表現することにつなげることができた。
- ・高等学校では、評価の観点に基づいた項目を位置付けたワークシートを活用し、その記述から学習状況を評価し、学習指導に生かしたことで、生徒の思考や判断を促し、思いや考えを伝えるきっかけとすることができた。

以上のことから、〔共通事項〕を視点に言語活動を工夫した表現及び鑑賞の指導を工夫し具体的な手立てを講じたことは、児童生徒が、感性や想像力を働かせて、思考力・判断力・表現力を育むことにつながったと考える。

#### 2 課題

表現及び鑑賞の活動では、〔共通事項〕を視点とした、かいたり伝え合ったりする言語活動における思考・判断したことを表現していく一連の活動を更に研究し、児童生徒の思考力・判断力・表現力を育てていく。

学習評価では、授業のプロセスに沿って一人一人の学習状況を的確に把握することができる観察の方法や、ワークシート等の工夫についての研究を更に進め、指導と評価の一体化を図っていきたい。

<引用文献>

- ・文部科学省「小学校学習指導要領解説 図画工作編」平成20年8月
- ・文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術編」平成20年9月
- ・文部科学省「高等学校学習指導要領解説 芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編」平成21年12月

関係者一覧

1 研究協力員

龍ヶ崎市立龍ヶ崎西小学校	教諭	横須賀 哲也
行方市立麻生中学校	教諭	大輪 一恵
県立石岡第一高等学校	教諭	浦和 瞳

2 茨城県教育研修センター

所長	武井 一郎
教科教育課 課長	金子 敏久
同 指導主事	印南 千明